

常用漢字表の制定に伴う小学校、中学校及び高等学校の学習指導要領の一部改正について（通達）

昭和56年10月1日 文初高第276号  
各都道府県教育委員会、各都道府県知事、附属小・中・高等学校、盲・聾・養護学校を置く各国立大学長、国立久里浜養護学校長あて  
文部事務次官通達

昭和56年10月1日内閣告示第1号をもって、常用漢字表が制定されたことに伴い、小学校、中学校及び高等学校における漢字の指導がその趣旨に即して適切に行われるようにするため、同日文部省告示第152号をもって、小学校学習指導要領（昭和52年文部省告示第155号）、中学校学習指導要領（昭和52年文部省告示第156号）、高等学校学習指導要領（昭和45年文部省告示第281号）及び高等学校学習指導要領（昭和53年文部省告示第163号）の一部を改正する告示が別紙1のとおり公示されました。

ついては、別紙及び下記事項を御了知の上、貴管下の教育委員会、学校に対し周知徹底されるようお願いします。

記

1 学校にかける漢字指導上の留意事項

(1) 小学校

ア 昭和56年度中は、従来どおりであること。ただし、昭和56年度中においても「燈」のついて「灯」で指導して差し支えないこと。

イ 昭和57年度以降、「灯」で指導すること。ただし、当分の間、児童が「燈」を用いることについて弾力的に取り扱うこと。

(2) 中学校

ア 昭和56年度においては、従来どおりであること。ただし、当用漢字にない常用漢字についても、現行国語教科書において本文教材（巻末の付録を除いた部分をいう。以下同じ。）に振り仮名付きで使用されているものなどについて、その必要性や使用頻度などを勘案して指導して差し支えないこと。

イ 昭和57年度から、改正後の学習指導要領に基づいて指導すること。この場合、国語教科書の本文教材における漢字の取扱いの状況などに配慮しながら適切に指導すること。

(3) 高等学校

ア 昭和56年度においては、従来どおりであること。ただし、当用漢字にない常用漢字に

についても、その必要性や使用頻度などを勘案して指導して差し支えないこと。

イ 昭和57年度から、改正後の学習指導要領に基づいて指導すること。

2 高等学校入学者選抜における取扱い

ア 昭和57年度入学者の選抜のための学力検査における漢字の出題等は、従来どおりの範囲で実施することが望ましいこと。

イ 昭和58年度以降の入学者の選抜のための学力検査における漢字の出題等は、中学校国語教科書の本文教材における常用漢字の使用状況など、中学校における漢字指導の実態を踏まえ、適切な配慮の下に行われる必要があること。

3 盲学校、聾学校及び養護学校における漢字指導

盲学校、聾学校及び養護学校における漢字の指導についても、このたびの小学校、中学校及び高等学校の学習指導要領の改正の趣旨、内容を了知の上、適切な指導を行うこと。

(別 添) 1

○文部省告示第 152号

学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第25条、第54条の2及び第57条の2の規定に基づき、小学校学習指導要領（昭和52年文部省告示第 155号）、中学校学習指導要領（昭和52年文部省告示第 156号）、高等学校学習指導要領（昭和45年文部省告示第 281号）及び高等学校学習指導要領（昭和53年文部省告示第 163号）の一部を次のように改正する。

昭和56年10月1日

文部大臣 田 中 龍 夫

1 小学校学習指導要領（昭和52年文部省告示第 155号）の一部を次のように改正する。

第2章第1節別表の学年別漢字配当表の第4学年の欄中「燈」を「灯」に改める。

2 中学校学習指導要領（昭和52年文部省告示第 156号）の一部を次のように改正する。

第2章第1節第2の〔第1学年〕の2の〔言語事項〕の②中「当用漢字」を「常用漢字」に改め、同節第2の〔第2学年〕の2の〔言語事項〕の②中「当用漢字」を「常用漢字」に改め、同節第2の〔第3学年〕の2の〔言語事項〕の②のア中「当用漢字の読み」を「常用漢字の読み」に、「その他の当用漢字」を「その他の常用漢字の大体」に改め、同節第2の〔第3学年〕の2の〔言語事項〕の②のイ中「当用漢字」を「常用漢字」に改める。

3 高等学校学習指導要領（昭和45年文部省告示第 281号）の一部を次のように改正する。

第2章第1節第2款第1の2のBの(1)のケ中「当用漢字」を「常用漢字」に改め、同款第1の2のCの(1)のク中「当用漢字」を「常用漢字」に改め、同款第1の3の(7)のア中「当用漢字音訓表」を「常用漢字」に改め、同款第1の3の(7)のイ中「当用漢字別表の漢字および」を削り、「（昭和43年7月11日文部省告示第 268号）」を「（昭和52年7月23日文部省告示第 155号）」に、「学年別漢字配当表の備考」を「学年別漢字配当表」に、「その他の当用漢字」を「その他の常用漢字」に改める。

4 高等学校学習指導要領（昭和53年文部省告示第 163号）の一部を次のように改正する。

第2章第1節第2款第1の2の〔言語事項〕の「当用漢字」を「常用漢字」に改める。

附 則

- 1 この告示は、公布の日から施行する。
- 2 小学校、中学校及び高等学校における漢字の指導については、改正後の小学校学習指導要領、中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領（昭和45年文部省告示第281号）の規定にかかわらず、昭和57年3月31日までは、なお従前の例による。

（別 添）2

小学校学習指導要領（昭和52年文部省告示第155号）、中学校学習指導要領（昭和52年文部省告示第156号）、高等学校学習指導要領（昭和45年文部省告示第281号）及び高等学校学習指導要領（昭和53年文部省告示第163号）新旧対照表

改 正	現 行
○ 小学校学習指導要領 第2章（各教科）第1節（国語）別表の 学年別漢字配当表の第4学年の欄 ..... <u>灯</u> .....	..... <u>燈</u> .....
○ 中学校学習指導要領 第2章（各教科）第1節（国語）第2 〔第1学年〕の2の〔言語事項〕 (2) 漢字に関する次の事項について指導する。 ア 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）に示す漢字の読みに慣れ、更にその他の常用漢字を250字ぐらいから300字ぐらいまで読むこと。 イ 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書くこと。なお、それ以外に上記アで学習した常用漢字についても、必要な場合、適切に用いるように努めること。 〔第2学年〕の2の〔言語事項〕 (2) 漢字に関する次の事項について指導する。 ア 第1学年で学習した常用漢字の読みに慣れ、更にその他の常用漢字を300字ぐらいから350字ぐらいまで読むこと。 イ 学年別漢字配当表の漢字を主として1,000字程度の漢字を書くこと。なお、それ以外に上記アで学習した常用漢字についても、必要な場合、適切に用いるように努めること。	(2) 漢字に関する次の事項について指導する。 ア 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）に示す漢字の読みに慣れ、更にその他の当用漢字を250字ぐらいから300字ぐらいまで読むこと。 イ 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書くこと。なお、それ以外に上記アで学習した当用漢字についても、必要な場合、適切に用いるように努めること。 (2) 漢字に関する次の事項について指導する。 ア 第1学年で学習した当用漢字の読みに慣れ、更にその他の当用漢字を300字ぐらいから350字ぐらいまで読むこと。 イ 学年別漢字配当表の漢字を主として1,000字程度の漢字を書くこと。なお、それ以外に上記アで学習した当用漢字についても、必要な場合、適切に用いるように努めること。

改 正	現 行
<p>〔第3学年〕の2の〔言語事項〕</p> <p>(2) 漢字に関する次の事項について指導する。</p> <p>ア 第2学年までに学習した<u>常用漢字</u>の読みに慣れ、更にその他の<u>常用漢字</u>の<u>大体も読むこと</u>。</p> <p>イ 学年別漢字配当表の漢字を主として1,000字程度の<u>常用漢字</u>について使い慣れること。なお、それ以外に上記アで学習した<u>常用漢字</u>についても、必要な場合、適切に用いるように努めること。</p>	<p>(2) 漢字に関する次の事項について指導する。</p> <p>ア 第2学年までに学習した<u>当用漢字</u>の読みに慣れ、更にその他の<u>当用漢字</u>も<u>読むこと</u>。</p> <p>イ 学年別漢字配当表の漢字を主として1,000字程度<u>当用漢字</u>について使い慣れること。なお、それ以外に上記アで学習した<u>当用漢字</u>についても、必要な場合、適切に用いるように努めること。</p>
<p>○ 高等学校学習指導要領（昭和45年文部省告示第281号）</p> <p>第2章（各教科）第1節（国語）第2款第1（現代国語）の2</p> <p>B 読むこと</p> <p>(1) ……………（略）……………</p> <p>ケ <u>常用漢字</u>がじゅうぶんに読めること。</p> <p>C 書くこと</p> <p>(1) ……………（略）……………</p> <p>ク <u>常用漢字</u>が正しく書けるようになり、国語の表記のしかたに慣れること。</p> <p>第1（現代国語）の3</p> <p>(7) ……………（略）……………</p> <p>ア <u>常用漢字</u>のすべての音訓が読めるようになること。</p> <p>イ <u>小学校学習指導要領（昭和52年7月23日文部省告示第155号）第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示す漢字に加えて、その他の常用漢字のすべてが書けるようになること。</u></p>	<p>B 読むこと</p> <p>(1) ……………（略）……………</p> <p>ケ <u>当用漢字</u>がじゅうぶんに読めること。</p> <p>C 書くこと</p> <p>(1) ……………（略）……………</p> <p>ク <u>当用漢字</u>が正しく書けるようになり、国語の表記のしかたに慣れること。</p> <p>第1（現代国語）の3</p> <p>(7) ……………（略）……………</p> <p>ア <u>当用漢字音訓表</u>のすべての音訓が読めるようになること。</p> <p>イ <u>当用漢字別表の漢字および小学校学習指導要領（昭和43年7月11日文部省告示第268号）第2章第1節国語の学年別漢字配当表の備考に示す漢字に加えて、その他の当用漢字のすべてが書けるようになること。</u></p>
<p>○ 高等学校学習指導要領（昭和53年文部省告示第163号）</p> <p>第2章（各教科）第2節（国語）第2款</p> <p>第1（国語Ⅰ）の2</p> <p>〔言語事項〕</p> <p>……………（略）……………</p> <p>エ <u>常用漢字</u>の読みに慣れ、主な<u>常用漢字</u>が書けるようになること。</p>	<p>……………（略）……………</p> <p>エ <u>当用漢字</u>の読みに慣れ、主な<u>当用漢字</u>が書けるようになること。</p>